

予防接種とワクチンの役割

予防接種には2つの役割があります。「個人を守る役割」と「社会を守る役割」です。

個人を守る役割

予防接種を受けると、その病気に対する免疫（抵抗力）がつけられ、その人の感染症の発症あるいは重症化を予防することができます。

社会を守る役割

多くの方が予防接種を受けることで、免疫を獲得していると、集団の中に感染患者が出ても流行を阻止することができる「集団免疫効果」が発揮されます。さらに、ワクチンを接種できない人を守ることもつながります。

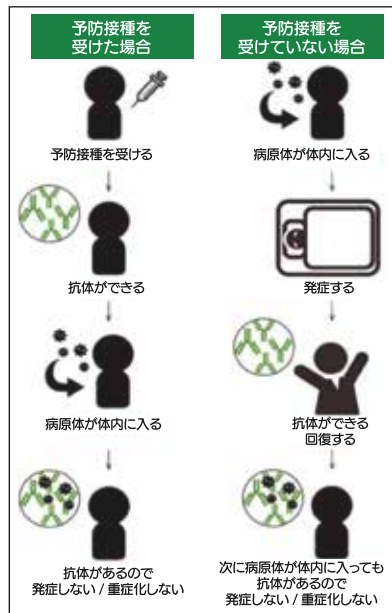
予防接種が効く仕組み

感染症にかかると、体の中でウイルスや細菌などの病原体に対する免疫がつけられ、次に同じ病原体が体内に入ってきた際にすぐに攻撃する仕組みができあがります。予防接種は、このような免疫のしくみを利用して、病原体が体内に入ってきてても病気になりにくい状態をあらかじめ作っておくものです。

60代以降に推奨している予防接種(任意)

インフルエンザ、肺炎球菌、新型コロナウイルス、带状疱疹、RSウイルス

子どもから成人、妊娠している人や渡航する予定の人など、条件によっても推奨される予防接種は変わります。町ホームページをご覧のうえ、協力医療機関に相談してください。



地方独立行政法人
川崎町立病院

薬剤師
いわかわ こうじ
岩川 浩二



ホームページ



町ホームページ